
編集後記

機関誌第12号が発行の運びとなった。編集委員、レフェリー他関係者の皆様に多大のご協力を頂き、改めて御礼申し上げます。

今回採用となった論文は、編集委員会およびレフェリーによる厳しい審査をクリアーした①「薬価基準と医薬品需要 - 医療機関の属性に着目した分析 -」（恩田 光子氏他）、②「日本の高齢者の口腔保健と老人医療制度の関係に関する一考察」（野村 眞弓氏他）の2本である。いずれも医療制度改革の議論に新たな視点を与える労作である。

研究ノートでは、「A Snapshot of e-Healthcare in the US and Implications for its Development in Japan」（Gregg L. Mayer, Ph.D.他）をとり上げた。本論文は、医療経済研究機構がファイザーヘルスリサーチ財団から研究助成を受け、平成12年度に実施した「インターネットによる患者・消費者への保健医療サービス提供（インターネットメディシン）に関する国際比較研究」のうち、米国共同研究者による研究をまとめたものである。インターネットを利用したDisease Management (e-DM)を中心に報告されている。また、研究全体の概要、Disease Managementについての解説は医療経済研究機構研究部長 坂巻 弘之が論文とは別にまとめたものである。

調査報告としては、医療経済研究機構が平成12年度事業として実施した「療養型病床群における患者の実態等に関する調査」を掲載した。平成12年度より施行された介護保険制度において、療養型病床群は医療保険適用型、介護保険適用型に分けられたが、それぞれのサービス内容や入院患者の状態の相違について必ずしも十分に把握されていないのが現状である。本調査では、療養型病床群における患者の実態等を把握し、適用保険種類（医療保険・介護保険）による相違を明らかにしている。

本誌も創刊以来9年目を迎えた。編集事務局としては、編集委員会のサポートを通じて本誌の更なる充実に努める所存である。今後とも各方面のご支援、ご指導を切にお願い申し上げたい。

（編集事務局代表 岡部 陽二）
